

目標達成計画

作成日: 平成24年 4 月 10 日

目標達成計画は、自己評価及び第三者評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2 (2)	「ひろいしの里」の取り組みが、地域の理解が得られるよう交流の機会を広げ深める必要がある。	地域との繋がりを深め、地域に開かれたグループホームとして交流回数が増える。	①お茶会の日を月一回から毎週日曜日とし、地域住民の方との交流の機会が持てるようにする。 ②四季折々の行事の際は地域住民の方々へ声を掛け、交流の機会が持てるようにする。 ③継続して地域の保育所や小学校、中学校、近隣などへ広報誌を配布し交流の場を持つ。	12ヶ月
2	11 (10)	全職員がグループホームの運営を意識し、利用者個々の支援を見直す必要がある。	利用者の個別ニーズに応じた「利用者本位の支援」ができていないか情報や記録等を検証する。	①日々のミーティングの時間を使い、職員全体で利用者の情報共有を図る。また連絡ノートで供覧できるようにする事で周知徹底を図る。 ②利用者とのコミュニケーションに重点を置き、利用者の希望を聞き取れるようにする。利用者との会話などはケース記録に残すようにする。 ③家族等の面会時に、グループホームに対する家族の意向や、本人の趣向等の情報を聞き、支援に繋げる。 ④運営推進会議の折に地域の方から、地域行事などの情報を得る。	12ヶ月
3	13	利用者の高齢化によりADLが低下しつつあり、ケアプランの内容や個別ケアのあり方を再考し研修を強化する必要がある。	基本的な介護技術の習得と事例検討を日々の支援に活かし状況判断力を養う。	①ミーティング等を利用し、介護技術の研修計画を設定する。 ②職場内研修にも積極的に参加し、研修に参加した職員が伝達研修を行う。	12ヶ月

4	35	避難訓練は近隣住民の方々の理解や参加はあるが、地域の消防団や他の地域住民への理解を広げる必要がある。	職員が災害時に対応でき、利用者の安全を確保すると共に職員の危機管理意識を高める。	①年に2回の避難訓練を実施する。 ②消防団員に避難訓練に参加協力を依頼する。	12ヶ月
---	----	--	--	---	------

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。